

第 19 回ラテン語の夕べ (H22.8.27) 資料

○内容： 漢文とラテン語の比較。テーマの共通性、類似点と相違点の指摘など。

- 1) Acta, non verba. 不言 ()
- 2) Ars longa, vita brevis. 少年老い易く () 成り難し
- 3) Aurea mediocritas. 黄金の ()

語彙： acta ^{アクタ} 行為、non ^{ノン} ……でない、verba ^{ヴェルバ} 言葉、ars ^{アルス} 技術、学問、longa ^{ロンガ} 長い、vita ^{ヴィータ} 人生、

brevis ^{ブレヴィス} 短い、aurea ^{アウレア} 黄金の、mediocritas ^{メディオクリタース} 中庸

1) 言葉と行為

「先ず其の言を行いて而る後に之に従う」(論語)。「古者言を之れ出さざるは、躬の速ばざるを恥じてなり」(論語)。「君子は言に訥にして、行いに敏ならんことを欲す」(論語)。

→ 「訥言 (敏行)」 → Deeds, not words. (英訳)

『友情について』(キケロー著、中務哲郎訳、岩波文庫) p.15 「アポローンによって最高の賢者だと判定されたという人物(ソークラテース)を、カトーより上には置かぬよう気をつけるのだ。カトーは**行為**が、その人物は**言葉**が称賛されているのだから。」(対話しているラエリウスの言葉)についての訳者のコメント：「ソークラテースは日常の対話で弟子たちを導く以上に、その生き方で教えたから、この言い方は一方的である。」

2) 生の短さについて

現代的解釈： Art is long, life is short. (芸術は長く、人生は短し)。

ヒポクラテース： BC460-377、古代ギリシャの医者。「人生は・短い・医術は・長い」。

生の短さ： 「一寸の光陰軽んずべからず。」と続く。Dum loquor, hora fugit. おしゃべりする

間、() は逃げる。De brevitare vitae. 「() の短さについて」(セネカ)。

学びに勤しむ： 学は以て已むべからず(荀子) ↔ 学を絶てば憂い無し(老子)。

生を楽しむ： 中世学生歌：Gaudeamus igitur. 「それゆえわれわれは()」。

Carpe diem. 「その日を摘め」(ホラーティウス)。

ブレヴェ エニム テンブス アエターティス サティス ロングム エスト アド ベネ ホネステクエ ウィーウェンドゥム
Breve enim tempus aetatis satis longum est ad bene honesteque vivendum. 「人の生涯の短い時間も、善く、かつ正しく生きることのためには十分長い」(キケロー『老年について』)。「朝に道を聞きて、夕べに死すとも可なり」(論語)。「人皆生を楽しまざるは、死を恐れざる故なり。死を恐れざるにはあらず、死の近き事を忘るゝなり」(吉田兼好)。Memento mori. 「死を心に刻め」。

3) 中庸

てんきん いこ (荘子)。センペル イーデム エアデム。semper idem (eadem). 「いつも同じ」。ニール アドミラーリー。nil admirari. 「何ものにも驚かないこと」(ホラーティウス)。イン メディオ トゥーティッシムス イービス。in medio tutissimus ibis. 「おまえは真ん中の道を行くのがもっとも安全だ」(オウィディウス)。ネー ニミウム。ne nimium. 「過ぎる事なかれ」(デルポイのアポローン神殿の言葉のラテン語訳)。エスト モドゥス イン レーブス。est modus in rebus. 「物事には程がある」(ホラーティウス)。

プラエクララ エスト アエクアビリタース イン オムニ ウィーター エト イーデム センペル ウルトゥス エアダムクエ フロンス
Praeclara est aequabilitas in omni vita et idem semper vultus eademque frons. 「人生を通じて心のバランスを保つことは素晴らしい。いつも変わらぬ表情と顔つきをされていることもまた素晴らしい」(キケロー、『義務について』 2.32)。

4) 結びにかえて

フェスティナー レンテ マグナ ウォルイッセ マグヌム
Festina lente. ゆっくり急げ。Magna voluisse magnum. 偉大なことを志したことが偉大。

5) 参考書

- ・ 「ラテン語名句小辞典」(野津寛、研究社 2010)
- ・ 「中国古典に探る座右の銘」(湯浅邦弘、角川新書 2010)

- 孔子：前 551-479、中国の思想家。
- ソクラテース：前 469-399、アテーナイの哲学者。
- 荘子：前 369-286、中国の思想家。
- 荀子：前 313-238、中国の思想家。
- カトー：前 234-149、『老年について』の話者。ローマの伝統的価値の擁護者。
- キケロー：前 106-43、ローマの政治家、文筆家。
- ホラーティウス：前 65-8、ローマの詩人。
- セネカ：前 1-65、ローマの哲学者。
- オウィディウス：前 43-後 17、ローマの詩人。
- 吉田兼好：1283-1352、随筆家。

中世学生歌——福西亮馬訳

1 番

だから喜ぼう！
若くあるうちに！
喜ばしい青春の後には、
忌わしい老年の後には、
土がおれたちを抱くだろう。

Gaudeamus igitur !
juvenes dum sumus !
post jucundam juventutem,
post molestam senectutem
nos habebit humus.

2 番

どこにいるんだい、おれたちの前の
世界の人たちは？
天上に行ってみよう、
地下に下りてみよう。
今どこに？——いなくなったんだ。

Ubi sunt, qui ante nos
in mundo fuere?
vadite ad superos,
transite ad inferos:
ubi jam ? fuere.

3 番

おれたちの人生は短いぜ、
すぐに終わってしまう。
足早な死が来て、
おれたちを容赦なく引っ張る！
誰も赦しちやもらえない。

Vita nostra brevis est,
brevis finietur.
venit mors velociter,
rapit nos atrociter !
nemini parceretur.

4 番

学園万歳、
教授たち万歳！
どのメンバーも万歳、
どのメンバーたちも万歳！
つねに花の中にあれ。

Vivat academia,
vivant professores!
vivat membrum quodlibet,
vivant membra quaelibet!
semper sint in flore.

セネカ『生の短さについて』——大西英文訳、岩波文庫

・・・この万人共通の災いに恨みを漏らすのは、何も一般の大衆や無知な俗衆に限ったことではない。名のある人々もまた、この思いに捉えられ、怨嗟の声をあげるのである。医家の中でも最も偉大な人の例の言葉も、この思いに由来する。曰く、「生は短く、術は長い」。自然を諫めて、哲学者にはそぐわない争いを起こしたアリストテレースの告発も、この思いからのものである。曰く、「自然は動物にはこれほど長い寿命を恵み与え、人間の五倍も十倍も長く生きられるようにしておきながら、それに比べて、多くの偉業をなすべく生まれついた人間に定められた寿命はあまりにも短い」。われわれにはわずかな時間しかないのではなく、多くの時間を浪費するのである。人間の生は、全体を立派に活用すれば、十分に長く、偉大なことを完遂できるよう潤沢に与えられている。

ホラーティウス『詩集』第1巻第11歌——山下太郎訳

神々がどんな死を僕や君にお与えになるのか、レウコノエ、そんなことを尋ねてはいけない。

それを知ることが、神の道に背くことだから。

君はまた、バビュロンの数占いにも手を出してはいけない。

死がどのようなものであれ、それを進んで受け入れる方がどんなにかいいだろう。

仮にユピテル様が、これから僕らに何度も冬を迎えさせてくれるにせよ、

或いは逆に、立ち足かかる岩によってテュッレニア海を疲弊させている今年の冬が最後の冬になるにせよ。

だから君には賢明であってほしい。酒を漉し、短い人生の中で遠大な希望を抱くことは慎もう。

なぜなら、僕らがこんなおしゃべりをしている間にも、意地悪な「時」は足早に逃げていってしまうのだから。

今日一日の花を摘みとることだ。

明日が来るなんて、ちっともあてにはできないのだから。

ホラーティウス『詩集』第2巻10番——山下太郎訳

あなたはもっと正しい生き方ができるだろう、リキニウスよ、大海にいつも迫ることをしなければ、あるいは嵐に対し用心しすぎて震え上がり、危ない岸にあまりにも船を寄せすぎることがなければ。

黄金の中庸を尊ぶ者は誰でも、
あばら屋の汚れを知ることもなく
安全である一方、人の羨む邸宅からも、
冷静なまま無縁でいられる。

巨大な松の木は、風に揺さぶられることが甚だしく、そびえ立つ塔はいっそう激しく崩れ落ち、稲妻も、山のてっぺんを打ちつける。

物事をよく心得た胸は、今とは別の運を不幸の中では願い、幸運の中では恐れる。
ユピテルは、惨めな冬をもたらすが
その同じ神が

取り除いてもくれる。たとえ今不幸でもいつまでもそうではない。アポローンも時おり沈黙したムーサの目を覚ます。いつも弓を張り続けているわけではない。

苦難には、勇気を持って雄々しく振舞いたまえ。同じく賢明になって、あまりに順調な風に対しては、膨らみすぎた帆を畳むのがよい。